

02 レッドフラッグサイン—オナカがイタイ



キーワードはOPQRST!



キーワードは「OPQRST」!

Onset
(発症様相)

痛みはいつからですか?

Palliative
Provocative
(増悪・寛解因子)

痛みが強くならないように何かありますか?

Quality
(症状の性質・程度)

どのような痛みですか?

Region
Radiation
(場所・放射の有無)

痛みの場所やどこまで広がりますか?

Symptom
(随伴症状)

痛みのほかに症状はありますか?

Time course
(時間経過)

痛みは持続していますか?

効率的な問診が重要ですよ!

いつから、どのように始まったか？ (Onset)

痛みが発症した時間やその時何をしていたかを詳細に答えられる場合は緊急性が高く、痛みがいつから発症したのか曖昧な場合は、緊急性は低いと考えられます。



何をしたら痛い？ 痛くない？ (Palliative/Provocative)

身体を動かしたり、咳き込んだり、あるいは、空腹時や食後/飲酒後に痛みが強くなる場合は、腹膜炎、十二指腸潰瘍、胃潰瘍、急性膵炎などを疑います。嘔吐や排便によって痛みが治まる、逆に嘔吐しても排便はなく、痛みが治まらない時は腸管疾患を疑います。



どんなタイプの症状か？ ひどさは？ (Quality/Quantity)

痛みは、連続・持続しているのか、あるいは断続的に起こるのかを聴取します。常に痛みがあつてNRS (Numerical Rating Scale : 痛みを評価する指標) が8点以上は緊急性が高くなります。



どこが痛い？ ほかに痛いところはない？ (Region/Radiation)

腹部のどこが痛いのかを触診で見定めます。時に、腰痛は腰部の痛みではなく、腰部とは異なる臓器からの「放射痛」、例えば、心筋梗塞や大動脈解離も考えられます。既往歴や合併症、そして、背部痛や胸痛の有無も確かめましょう。



痛み以外の症状は？ (associated Symptom)

患者を触診した時、発熱はないのに汗ばんでいた (冷汗)、逆に高

熱による悪寒がある場合や、腹部に反跳痛や新性防御がある場合は緊急性の高い腹部疾患が考えられます。

★反跳痛



★新性防御



痛みは続いている？ (Time course)

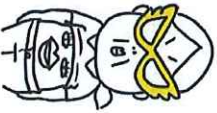
腹部に激しい痛みが持続している場合は、緊急性が高いと判断する必要がある。

OPQRSTの順序にはこだわらず、それぞれの特徴と問診の仕方を頭に入れておきましょう。このキーワードは、救急外来に限らず、入院患者や在宅患者の急変時にも活用できます。

✿痛みの情報以外に、

バイタルサイン、既往歴、合併症、そして、あなた自身が感じた第一印象（なんとなくおかしい）を統合してレッドフラッグサインを見抜きましょう。

漫然と問診せず、瞬時に意図的に問診しましょうね



今、それ聞く？



どうして会話はすれ違う？

